

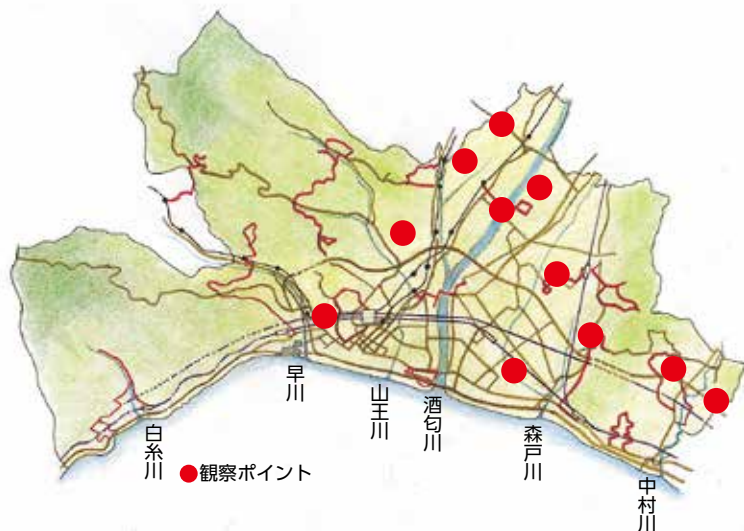
平地の自然観察

足柄平野全景



平地

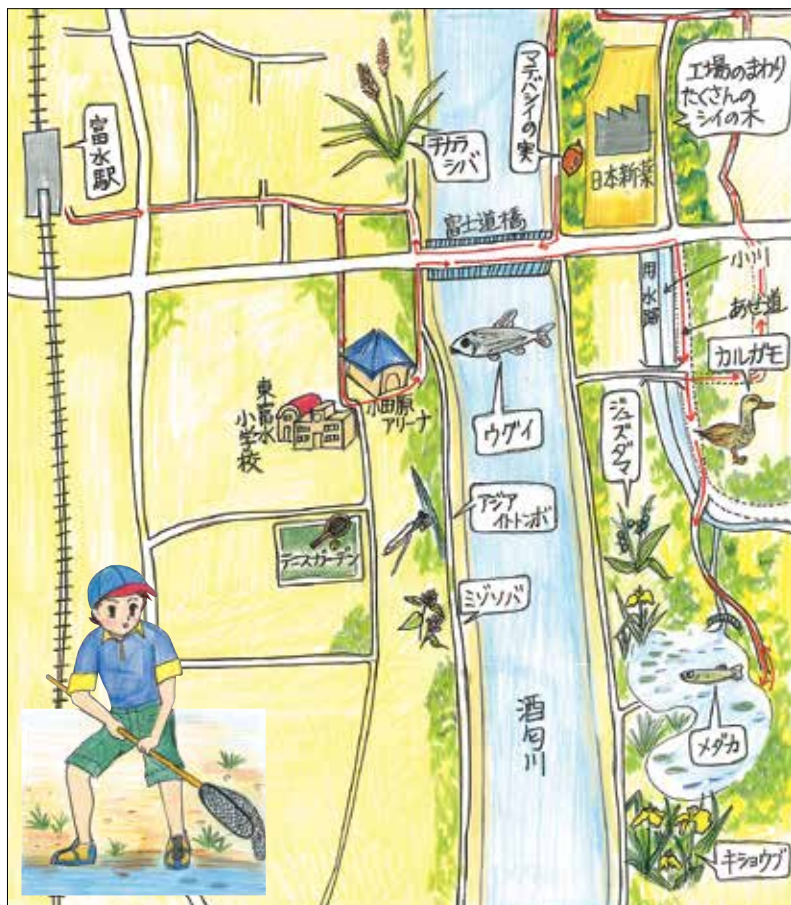
小田原の平地は主に水田や畑、そして、住宅地として利用されています。そこには、人間とのかかわりを深く持ちながらも色々な動植物が生きています。さあ、身近な自然の探索をしましょう。



平地の自然観察マップ

小田急の「富水駅」から東に行き、酒匂川を渡ると、水田や畑が多く見られ、あぜ道や農道で自然観察ができます。近くでメダカ(ミナメダカ)も見ることもできます。

平地



交通 小田急「富水駅」下車・乗車

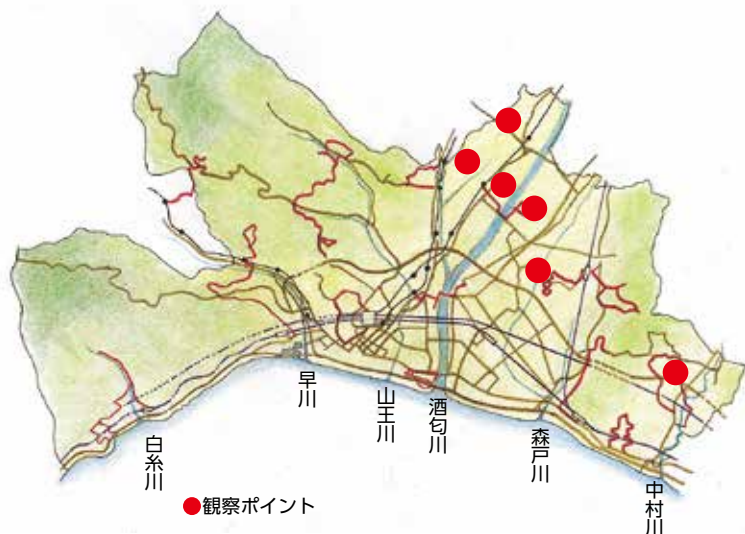
注意 耕作地には勝手に入らないようにしましょう。

水田の自然

千代地区



水田の中には、夏に水が入り、冬は乾くという環境に適した植物や昆虫・鳥などが生きています。畦や用水路の周辺はそれらのよい観察場所です。



平地

水田の植物

冬から春の水田は、タネツケバナに始まり、コオニタビラコ、ノミノフスマ、スズメノテッポウ、レンゲソウなどが、田おこし直前まで花を咲かせています。

夏、イネが育つ頃、コナギ、タウコギなどは水の中で元気良く育っています。

秋、イネを刈り取った後は、ホシクサ、キカシグサ、カヤツリグサの仲間やイネ科植物の天下です。



レンゲソウ（4月）

緑肥として冬の水田に植えられます。花が輪状に並ぶ様子がハスの花に似ているので「蓮華草」の名があります。



オヘイチゴ（4月）

ヘイチゴより大きく葉は5枚の小葉からできています。



タネツケバナ（3月）

春、どの草より早くに水田一面を白い花で飾ります。



ケツネノボタン（4月）

光った黄色い花が畦に咲き、できた実は服に着いて運ばれます。



ムラサキサギゴケとトキワハゼ(5月)

太陽を一面に浴びて、紫の花むしろを広げたように咲きます。白花品はサギゴケです。トキワハゼは夏や秋にも見られます。



キツネアザミ (5月)

アザミに似た花を咲かせますが、葉は柔らかく、とげはありません。茎の上部が枝分かれをし、赤紫色の頭状花をつけます。



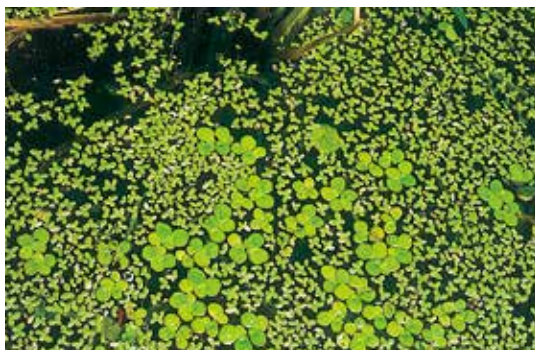
カワヂシャ (5月)

若い苗は、やや紫色をしています。川べりに生えるチシャ(レタス)の意味で若葉は食べられます。



スズメノテッポウ (4月)

花穂を引き抜き、口にくわえて吹くと甲高い音が出るので、「ピーピー草」とも言われます。



ウキクサ (6月)

水中にたくさんの根を下ろし、水に浮いて育ちます。

アオウキクサ

ウキクサより小さく、水中の根は1本で、全体は黄緑色をしています。



カズノコグサ (5月)

葉は触るとざらつき、数の子そっくりな穂をつけます。



アゼムシロ (6月)

ミゾカクシとも呼ばれます。あぜや溝などで育ちます。小田原では少なくなってきました。



タカサブロウ (9月)

花は目立ちません。まるで人名のような名前ですが、そのわけは不明です。



スイバ

(5月)

別名スカンポと言われ、春の新芽を食べると酸っぱくておいしいです。



ジュズダマ (8月)

ままごとで、ジュズや首かざりなど作る時の材料です。始めは黒く、熟すと白くなります。



イヌホタルイ (9月)

水田や休耕田によく見られます。細長い茎はたなみおもてに畳表にするイグサのようです。



コゴメgayatsuri (9月)

全体がカヤツリグサによく似ています。日当たりの良い場所を好みます。



タマガヤツリ (9月)

休耕田などによく見られます。カヤツリグサとはちがい、穂がきゅうじょう球状なので区別できます。



イボクサ (9月)

全体は、ツユクサに似ていますが、花は小さく白色でうす紅をさしています。



オモダカ (9月)

葉は鋭い矢じり型で、純白の花が咲きます。



キカシグサ (9月)

あちこちの水田で見かけます。小さい植物なので、見つけるのは容易ではありません。



キクモ (9月)

浅くよどんだ水の中に生えています。葉が菊に似て、かすかな香りがあります。



チカラシバ (9月)
しっかり根を張り、簡単^{かんたん}に抜けな^ぬいことから、この名がついています。黒紫色の花穂をつけます。



ケイヌビエ (9月)
夏から秋にかけて、茎の頂に20cmくらいで長い^{いただき}ノゲのある花穂をつけます。



アメリカフウロ (4月)
最近、休耕田に多く見られるようになってきました。花はゲンノショウコに似ています。



ヒメクグ (10月)
水田ばかりでなく、校庭でも見られます。全体が小型なのでこの名がつけられました。



ヒナガヤツリ (9月)
ひながやつり
雛蚊帳釣の名のように、全体が小さくて弱々しい感じがします。



ヒデリコ (9月)
かっしょく
夏の炎天下にもめげず、褐色の小さな花をたくさん付けます。花穂は線香花火に似ています。



マツバイ (9月)
水田にかたまって生育しているのをよく見かけますが、大変小さいので観察には注意が必要です。



ホシクサ (9月)
茎の上についた白い花の集まりが星のように見えることからこの名が付けられました。



デンジソウ (9月)



ミズワラビ (9月)

デンジソウとミズワラビは、今ではほとんど見られなくなった貴重なシダ植物です。普通のシダ植物と違い、デンジソウは四葉のクローバーの型をしています。ミズワラビは、一年生のシダ植物で春に孢子ほうしが発芽はつがし、秋には孢子をつくり枯かれてしまいます。



コナギ (9月)

金魚鉢はちに浮かせるホテイアオイに似ていますが浮うのうはありません。屋過あざぎになって花を開き、夕方にはしぼんでしまう一日花です。



オオアカウキクサ (3月)

水田や池などの水の上に浮かぶシダ植物です。冬、寒くなると一段と赤く色鮮あざやかになります。



アブノメ (9月)

水田の刈りあとによく見られます。実の形から「蛇の目^{あぶ}」とついたのでしょう。



ホソバヒメミソハギ (9月)

近頃水田で良く見かけるようになりました。花は小さいのですがミソハギそっくりです。



カントウヨメナ (10月)

田の畦^{あぜ}一面に咲く野菊の一つです。若葉はおひたしにすると、おいしいです。



カワラスガナ (9月)

小田原の水田では、あまり見られなくなりました。カヤツリグサの仲間です。



シロバナサクラタデ（9月）
休耕田や土手などによく見られます。花がピンクのサクラタデはあまり見かけません。



チョウジタデ（11月）
タデ科ではありませんが、似ています。全体は無毛で茎は直立しています。



アキノウナギツカミ（10月）
茎などに大きなトゲがあり、ウナギをつかむ時に使えるというのでこの名前があります。



ミゾソバ（11月）
用水路で見られます。水につけておくと根を出す強い植物です。白や赤の花もあります。

水田の虫



アメンボ



ヒメイトアメンボ

水面をすべるように動き、水面に落ちた昆虫の体液を吸います。羽があり、飛ぶこともあるので注意して観察しましょう。



マツモムシ

水の中を逆さになって泳ぎます。餌は、昆虫の体液です。



ヒメゲンゴロウ

ゲンゴロウの仲間は全て肉食性で、エサの豊富な所にいます。



ヤゴ（イトトンボの仲間の幼虫）ヤゴ（トンボの仲間の幼虫）
泥の中を探ってみると、意外にたくさん住んでいます。





アジアイトトンボ (赤色型) (交尾)

上府中公園では、赤色型が6月頃多く見られます。アオモンイトトンボによく似ていますが、小田原ではすみ分けているようです。



クサカゲロウ

成虫・幼虫ともにアブラムシ、ダニなどをたくさん食べます。

クサカゲロウの卵

「うどんげ」と呼ばれ^{きつきょう}吉凶の迷信^{めいしん}があります。



ウヅキコモリグモ

卵をつけたまま動きまわるクモです。



ヤサガタアシナガグモ

水田に多く、水平の円い網^{あみ}をはります。



イネを食べる

コバネイナゴ

ふつうのイナゴです。腹の方が羽より長いのが特徴です。腹より羽の長いハネナガイナゴは、農薬の使用で少なくなりました。



ナツアカネ

オス・メスがいっしょに田に卵をうみます。

セセリというのはせわしなくストロー形の口を動かすチョウという意味の名です。

ジェット機のような羽で、すばやくとび回ります。



イチモンジセセリ

白いもようが一行にならんでいます。



キマダラセセリ

羽を半分開いて止まることが多いです。



アカスジキンカメムシ

(幼虫) (成虫)

フジ・ミズキ・ハゼノキなどにいます。



エサキモンキツノカメムシ

背中のハート模様

がかわいらしい虫です。



ヒメチャバネアオカメムシ

キク科の植物のしるを吸います。



ヨコヅナサシガメ

大きさと美しさでは横綱級のサシガメ。



キボンカミキリ

イチジクやクワなどを食べます。



クサギカメムシ

クワ、クサギなどにいます。



アカスジカメムシ

セリ科の植物からしるを吸います。



クモヘリカメムシ

イネ科の植物にいます。

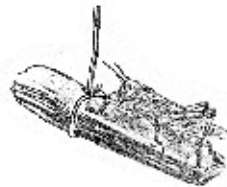
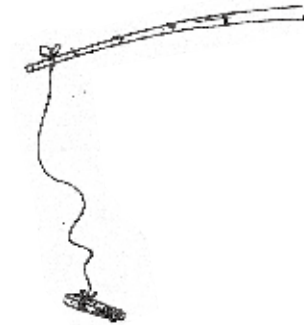
バッタつり

①さお（あみの柄でも可）に糸をつけて、えさの代わりにわりばしの後ろの方を黒く塗ったものを結びつけます。これが、おとりになります。

②バッタの居場所を見つけます。
③バッタを見つけたら、その近くにおとりを投げ入れ、目につくようにゆっくりと動かします。

④オスならば、そのおとりにしっかりとつかまり、無事手元につり上げることができます。

⑤メスは、おとりに見向きもしません。なぜ、そうなのか、考えてみてください。



水田の生き物



ホウネンエビ

エビでなく、ミジンコに近い
仲間で、田植えが済んだ頃発生。



マルタニシ

殻高6cm程にもなり、全国の
田や河川に住んでいます。



カワナナ

ホタルの幼虫の餌^{えさ}としても有
名で、川や水田にいます。



ヒメモノアラガイ

水田、用水路の水草に付着し
ていて、殻は薄く半透明^{はんとうめい}です。



マシジミ

発見できたのが不思議なくら
い、数少なくなっています。



シマイシビル

水田や川の下流部に生活する、
きたない水^{しひょうしゅ}の指標種です。

水田の鳥

水田の中だけでなく、田んぼの間を流れる小さな川も含めて、サギの仲間やタシギ、カルガモなどを見ることができます。ただ単に餌を採るだけでなく、休息の場にもなっています。また、冬の間は夕方から朝方の間にカモが落ち穂を食べに来たりもします。



アマサギ <夏鳥>

コサギより少し小さく嘴は短い
くちばし
です。繁殖期には頭から胸・背中の羽が橙色になります。水田で見られることが多く、バッタやカエルなどを食べます。



ケリ <留鳥>

脚の長い大型のチドリです。飛ぶと翼に白と黒のはっきりとした模様が見られ、この時の鳴き声が「ケリッケリッ」と聞こえることから、ケリの名がつけました。



タシギ <冬鳥>

全身黒と黄色と茶色の複雑なまだら模様をしています。まっすぐで長い嘴を泥の中に突き刺して小動物などを食べます。

畑地の自然

成田の桃畑



小田原には、果樹園や野菜畑があちこちにあります。農家の方々の迷惑にならないように気を付けながら、自然観察をしてみましょう。きっと新しい発見があるでしょう。



畑地の植物

畑はちょっと油断すると、すぐに雑草（野草）に覆われてしまいます。これは、絶えず畑の周辺から色々な植物の種が進入してくるからです。風に乗って飛んできたり、動物に付いてきたり様々ですし、土中の植物の切れ端からも育ちます。

放置するとやがてはシイやタブの林に変わって行きます。



スギナ （3月）

春を告げるツクシは、シダ植物「スギナ」の胞子葉です。針金のような地下茎から次々に芽をだします。



ヒメオドリコソウ （4月）

ピンクの花が茎の回りに咲く様子が「踊り子」のように見えます。

最近よくみかけられるようになった帰化植物です。



セイヨウタンポポ （4月）

繁殖力が旺盛で在来のカントウタンポポにとって代わりつつある帰化植物です。美しい黄色の花は、春のぬくもりを伝えてくれます。



カラスノエンドウ(4月) カスマグサ (5月) スズメノエンドウ(5月)

種を入れるサヤが黒く大きいのでカラス、カラスより小さいのでスズメ、その中間がカスマグサです。花はどれも蝶形ちようできれいです。



シロツメクサ (5月)

クローバーの呼び名で親しまれています。



クサノオウ (6月)

畑の周りの草地に、濃い黄色の花を咲かせています。



コメツブツメクサ (5月)

畑に群生し、最近よく見られるようになってきました。



ノゲシ (4月)

ハルノゲシともいいます。莖や葉を切ると、白い汁が出てきます。



ハルジオン (5月)



ヒメジョオン (6月)

どちらも畑地や空き地に大変多くなっている帰化植物です。春に咲くのがハルジオンで、初夏に咲くのがヒメジョオンです。



ノアザミ (5月)



オオイヌノフグリ (3月)

小田原で春から初夏にかけて まだ冷たい春の陽に輝く青い
咲くのは、このアザミだけです。宝石のような花は見事です。



カキドオシ (4月)
 垣根かきねの間から茎のを延ばし、紫色の花を咲かせます。



ノビル (5月)
 ヒルとは古語で、匂におう植物のことです。食用になります。



キランソウ (5月)
 「じごくのかまのふた」ともいい、四方に地面をはって育ちます。



ヘクソカズラ (6月)
 畑の周りや道ばたに見られます。草や実をつぶすとおいがします。
 どんなにおいかな？



ヘラオオバコ (5月)
 最近多くなってきた帰化植物です。
 オオバコに似た花穂をつけますが、葉の形がちがいで、ヘラの形です。



ヒメコバンソウ (5月)
帰化植物で、近頃目立つよう
になってきました。



カモジグサ (5月)
道端^{みちばた}や畑の周辺の空き地など
に良く見られます。



ニワゼキショウ (5月)
アヤメ科の花とは思えないの
ですが、葉を見れば分かります。



チガヤ (5月)
古くはツバナといっていまし
た。若い穂は^{あま}甘みがあります。



ヘビイチゴ (5月)
名のイメージから毒草のようですが、毒ではなく薬草です。



クサイチゴ (5月)
木なのですが草に見えます。おいしい実を付けます。



モミジイチゴ (5月)
黄色い実を付け、木なのでイチゴとも言われます。



ナワシロイチゴ (5月)
6月の田植えの頃実が熟します。
しんせきしよく
深赤色の実は甘く食べられます。



ドクダミ (5月)

畑の周辺だけではなく、いろいろな場所で見られる薬草です。



ホトケノザ (5月)

このホトケノザは、春の七草の植物ではありません。



ヤブカンゾウ (5月)

若い葉は食べられます。甘みがあるので、甘草(カンゾウ)です。



ヒメヒオウギズイセン (5月)

園芸種ですが、最近あちこちに野生化しています。



ツルボ (9月)

畑周辺の土手や水田の畔道あぜみちなどに多く生育しています。

夏から秋にかけて、土手や草原を薄紫うすむらさきに飾ります。



スベリヒユ (9月)
 丈夫な植物で、真夏に抜いておいてもなかなか枯れません。



シンテッポウユリ (9月)
 テッポウユリに似ています。繁殖力が強く生育域を広げています。



コニシキソウ (8月)
 畑や荒地の代表的な植物です。緑の葉に赤いすじ、2色の草です。



ツユクサ (9月)
 露のようにはかなく消える花がこの名の起こりです。



キクイモ (9月)
 もととは地下のイモを採るために栽培したのですが、野生化しています。花卉数が少なく、8月に咲くイヌキクイモも生育しています。



ヒガンバナ (9月)

秋の彼岸ひがんの頃、畑の土手などを赤く染めます。別名マンジュシャゲ。



キツネノカミソリ (8月)

畑近くの山裾やますそなどに咲きます。葉の形からこの名が付いたといいます。



コヒルガオ (6月)

ピンクの花を昼間に咲かせます。地下茎でふえます。



ベニバナボロギク (9月)

畑の周辺の空き地などに見られます。以前は野菜としていました。



カニクサ (9月)

一枚の葉がツルになっています。どのくらいまでのびるのでしょうか？



ベニシダ (5月)

若い葉は、赤みを帯びていて目立ちます。若い包膜ほうまくも赤色です。



イヌワラビ (9月)

どこにでも見られ、抜いても地下茎が残ると葉を出します。



ミゾシダ (5月)

畑の周辺しめの少し湿った所に生育しています。

畑地の虫



ヤマトシジミ

幼虫はカタバミなどを食べます。



ツバメシジミ

幼虫はシロツメクサなどを食べます。



ベニシジミ

幼虫はスイバなどを食べます。



アカタテハ

秋には、よく日なたで休み、冬越しをします。



ヒメアカタテハ



ツマグロヒョウモン

コスモスに来ます。



キチョウ



モンキチョウ



ツマキチョウ



モンシロチョウ

明るく開けた場所にいます。キャベツの害虫です。



スジグロシロチョウ

杉林のような暗がりにはいます。ミカンのにおいがするものもいます。



チャドクガ (幼虫) チャドクガ (成虫)

ツバキの葉でよく見かけます。
刺針さしはりに注意。さされるとはれてしまいます。

ホタルガ (成虫)

昼間活動するガなので、目につきます。



(幼虫) アメリカシロヒトリ (成虫)

北米から侵入した庭木の害虫です。



カノコガ

昼間活動します。
幼虫は、タンポポなどを食べます。



ベニスズメ(スズメガ)の成虫



スズメガの仲間ななまの幼虫

スズメガの仲間の成虫は、樹液じゆえきを吸いますが、幼虫は、根菜等を傷つけて汁を吸うため、農家の人に害虫として嫌われています。
お尻にとげのようなものがある幼虫は、ほとんどがスズメガの仲間の幼虫と言えます。幼虫は「イモムシ」ともよばれています。



ナミハナアブ

ヤツデの花によく集ま
ります。



マルハナバチ

地中に巣を作ります。



ミツバチ

日本全国で飼育さ
れています。



オオハナアブ

キクなどの花によ
く来ます。



クマバチ

ヘチマの花によ
く来ます。



オオセイボウ

スズバチの幼虫に
寄生します。

ハチとアブの違い

ハチは、触角が長く羽が4枚です。

アブは、複眼が大きく羽が2枚に見えます。



ホシホウジャク

朝と夕方活動します。ハチと
間違えやすいガです。飛びなが
ら蜜を吸います。



オオスカシバ

昼間活動します。羽を速く動
かすので、粉がとれ透明な羽に
なります。

この2種類は、ハチに似ていることで身を守るガの仲間です。



コガネグモ

黄色と黒の模様がはっきりしています。



ナガコガネグモ

危険を感じると網を激しく揺ります。



コシロカネグモ

木や草の間に水平な網を張ります。



ココマキリ

成虫は、8月頃から畑や草地で見られます。



ハラビロカマキリ

(褐色型と緑色型)

木の上にすんでいることが多く、前羽の白い点がとくちょうです。



オオカマキリ



チョウセンカマキリと寄生虫(ハリガネムシ)

チョウセンカマキリのおしりに何かあるので引っ張ると、寄生虫が出てきました。



オオカマキリの卵のう

腹の先にある毛であわ立てながら卵をうむので、ふっくらしています。



ナナフシ

おどろ
驚かすと死んだふ
りをします。



ショウリョウバッタのオス

ショウリョウバッタはキチキチと音を立てて
飛ぶので、きちきちバッタともいわれています。



ショウリョウバッタのメス



ウリハムシ

ウリハムシの仲間はウリの葉や花によく来ます。
ヘチマの観察をするとよく見かけます。



クロウリハムシ



カネタタキ

チンチンと金属的
な音で鳴きます。



マメコガネ

成虫は花壇の花、葉を食べ、幼虫は土の
中で根を食べます。

卵から成虫まで1～2年かかります。



ヒメコガネ



センチコガネ

動物の死体や糞を
処理してくれる虫で
す。



コアオハナムグリ
花粉や蜜、樹液などを食べます。



カナブン
主に樹液などを食べます。



ナガメ
アブラナ科の植物の汁を吸います。



ニジュウヤホシテントウ
黒い点が28ぐらいあります。



ナナホシテントウ
アブラムシを食べます。



ナミテントウ
2匹の背中の模様は変化に富み、まるで別の種類に見えますが、同じナミテントウです。



カメノコテントウ
1 cmぐらいの大きな虫でクルミハムシの幼虫を食べます。



トホシテントウ
大きな黒い点が10こあります。カラスウリの葉を食べます。



クロヤマアリ
かわいた所でよく見かけるアリです。



ヒメシロコブゾウムシ

シシウド、ヤツデなどの葉をよく食べます。



コフキゾウムシ

クズなどの葉をよく食べます。



オジロアシナガゾウムシ

クズのくきに傷をつけて卵を産みつけます。



ツماغロオオヨコバイ

カニのように横に移動します。



アワフキムシ

泡の中には幼虫がかくれています。セミに近いなかまです。



ケラ

トンネルほりの名人です。ジーンと低く鳴きます。



ハサミムシ

メスは卵や幼虫を守りながら行動することがあります。



マツムシ

唱歌「虫の声」に歌われるようにチンチロリンと鳴きます。川原などの草原にいます。



アオマツムシ

木の上から大きな声でリーリーリーと鳴きます。コオロギ類ではめずらしく緑色です。



クビキリギス

夜にするどくジーンと続けて鳴きます。



ツムシ

ジ・ジ・ジ・ジィと小さく鳴きます。



クツムシ

ガシャガシャと大きな声で鳴きます。



キリギリス (メス)

オスはギーッ・・・と昼間から鳴きます。



シブイロカヤキリモドキ

春にジーンと鳴いているのはクビキリギスか、この虫です。やや低いし、ぶい声で鳴いています。



カンタン

鳴く虫の女王といわれます。ルールーと鳴きます。

平地



ツヅレサセコオロギ
リーリーリーと石の下で、続けて鳴きます。



ハラオカメコオロギ
リリリリと切っ鳴きます。



ミツカドコオロギ
リッリッリッと切っしてすどく鳴きます。



エンマコオロギ
コロコロコロリーと美しい声で鳴きます。



マダラスズ
ジージーツと鳴きます。体は小さいです。



スズムシ
リーンリーンと美しく鳴きます。



コメツキ



サビキコリ

この2種類は、ひっくり返すとはね上がります。



フタモンアシナガバチ



セグロアシナガバチ



キアシナガバチ



スズバチ



コンボウヤセバチ

これらのハチは、チョウやガの幼虫や他の虫などを餌えさとしています。



イラガの幼虫いづ

さわると痛いですが、冬見られるまゆはつぼの形をしています。



スズメバチの巣

刺される場所によっては、人間でも死ぬことがあるので、いたづらをしないようにしましょう。

畑地の鳥

果樹園などでは、秋から冬にかけて、特にミカンやカキの実を食べるにメジロ、ヒヨドリ、ツグミ、ムクドリ、などがやって来ます。

また、ツグミやアカハラが地上にいる小動物を探して落ち葉を引っくり返しながらか歩いている姿も見ることができます。



キジ <留鳥>

日本の国鳥です。顔は赤く、胸から腹にかけては緑色をしています。翼は短く、尾がとても長いです。ケーン、ケーンと大きな声で鳴きます。



チョウゲンボウ <留鳥>

翼は細長く尾も長めです。背中は茶色く体の下側に黒い斑があります。ヒラヒラと舞うように飛んだり、空中の一ヶ所で止まったりします。



コジュケイ <留鳥>

茶色い体に黒い斑点、顔から喉は赤茶色。竹ヤブや下草の中でピューと強く大きく、またチョットコイ・チョットコイとも鳴きます。家族でいるのも見られます。



ヒヨドリ <留鳥>

全身灰色で尾が長く、^{くちばし}嘴も細長く黒色。ピーピーまたはピーヨピーヨと強く大きい声で鳴きます。波型に飛び、秋から冬にかけて大きな群れで移動や渡りをします。庭の木の実を食べに、よくやってきます。



モズ <留鳥>

頭は茶色^{つばさ}で翼や尾は黒色^{くちばし}。嘴は太く鋭い^{すど}鎌形^{かぎ}。眼の横に黒い線があります。杭の上や木の梢で尾を回して^{くい}キーンと鋭く鳴きます。トカゲやバッタなどを枝やバラ線^{こすえ}に刺す「はやにえ」をつくるという習性があります。



ジョウビタキ <冬鳥>

灰色の頭に黒い背中、お腹はオレンジ色^{つばさ}。翼には白斑があります。縄張り性が強く、^{なわば}アンテナや電線・木の梢などに止まります。ヒッヒッヒッと高い声やカッカッカッという声も出します。



シロハラ <冬鳥>

ツグミと同じくらいの大きさですが、あまり明るいところには出てきません。ガサツゴソッと大きな音を立てながら落ち葉をはねのけ、ミミズや昆虫を探します。名前の通り、腹が白っぽいです。



ツグミ <冬鳥>

頭から背中^{みづ}は茶色く、目の上には白い線があり、胸から腹には黒い斑点^{ほんてん}があります。地上を歩いてミミズなどを捕りますが、柿の実なども食べます。



メジロ <留鳥>

全身明るい黄緑色の体の小さい鳥。目の周りには白い輪があります。花の蜜や果実も食べます。チーチー、チュルチュルチュルと高い声で複雑に鳴きます。



ムクドリ <留鳥>

全身が黒っぽい灰色で顔が白く、くちばし 嘴と脚はオレンジ色です。キュルキュル、リャーリャー、ジャージャーなどと鳴き、夏の終わりから冬には大群を作りねぐら 壱をとったりします。

平地

1枚の羽根から

コラム



道ばたで鳥の羽根ひろを拾うことがあります。1枚の羽根から持ち主を想像してみましょう。この羽根は軸じくの左右の幅が大分違います。これは翼の先端近くにある初列風切羽根つばさ といって、鳥が飛ぶ時に前進するための部分です。全体的にオレンジ色っぽい色をしていて、一部が濃い茶色になっています。羽根の長さは70mmありました。

この羽根の持ち主はジョウビタキで、体の大きさはおよそ140mmになります。羽根を拾った季節や環境、模様や羽根の長さから予想できる体の大きさなどをヒントに、持ち主を想像してみましょう。

市街地の自然

小田原駅西口



人々がたくさん住んでいる市街地や住宅地でも、空き地や街路樹の根元などに自然を見ることができます。また、人間の住む所を生活の場とする虫や鳥もたくさん観察できます。



市街地の植物

街路樹の下や道ぞいの花壇^{かたん}の中、歩道のコンクリートのすき間など、ちょっとした場所にも植物は、精一杯生育しています。また、ここでは帰化植物も多く見ることができます。



カタバミ（4月）

種子をはじき飛ばすのでよく増え、葉が紫色なのは、アカカタバミです。



ツメクサ（4～8月）

少しでも土があれば生えてきます。葉の形が名前の由来になっています。



ヒメムカシヨモギ（9月）

どこにでも生える北アメリカ産の帰化植物です。



イノモトソウ（5月）

井戸の近くに生えるので、井の許草^{もとそう}の名があります。石垣の間や生け垣の周辺に見ることができます。



ハキダメギク（9月）
ゴミがたまるような肥料分の多い
所や花壇などに多く見られます。



ワルナスビ（6月）
ナスによく似た植物で、多く
のトゲを持っています。



クルマバザクロソウ（9月）
葉が車輪のようなつき方をし
ている帰化植物です。



エノコグサ（9月）
少しでも^よ余地があると生え、道路
の舗装の割れ目まで進出します。



ウラジロチチコグサ（4～7月）
花の色が茶色をおびています。
葉のうらが綿毛で白く見えます。



ヒメスミレ（4月）
コンクリートのすき間に根を
はり、紫色の花を咲かせます。

市街地の虫



クロゴキブリ

家の中でよく見かけるゴキブリです。



ヤマトゴキブリ

家の中だけでなく、樹皮の下にもいます。



チャバネゴキブリ

家の中など暖かい所にいます。



ニクバエ

キンバエ

この2種類のハエの幼虫は、動物の死体やふんから発生します。



幼虫

アオバハゴロモの成虫

さわろうとすると、枝の後ろににげます。ハトともよばれます。幼虫は白い物におわれています。



ヒトスジシマカ

うすぐら薄暗いところで、昼間活動し、人の血を吸います。



ユスリカ

オスは、メスを呼ぶために蚊柱かばしらをたてます。この力は人の血あかを吸いませぬ。幼虫は、水中の泥どろに住む赤虫あかむしです。



アシダカグモ
ゴキブリ等を捕えます。



クモを捕らえたツマアカクモバチ
ツマアカクモバチの幼虫のえさにします。



オオヒメグモ
人間の住めるところなら、どこにでもいるクモです。



ヒラタグモ
円盤状の住居えんぱんを作り、そこからのびる糸いとにふれた虫を捕らえます。



コクサグモの幼体
棚たなのようなあみをはり、その入り口で獲物えものを待ちます。



ガガンボの一種キリウジガガンボ
捕まえるとすぐ足がとれます。



カマドウマの一種クラスミウマ
ミミズの死体を食べています。ジャンプする力があります。



ニワハンミョウ
すばや
素早い動きをします。



ハンミョウ
ミチオシエともいわれます。



キベリアオゴミムシ
しめった場所に住みます。



セアカゴミムシ



死んだミミズを食べる
オオヒラタシテムシ
幼虫と成虫



オオゴミムシ

ゴミムシと名前は悪いのですが、動物の死体を処理してくれるうえに、死体にわくハエの幼虫（ウジ）も食べてくれます。

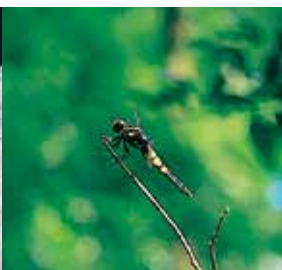


ジグモの巣



ジグモ

巣の上に止まったり、歩いたりする虫を、巣の中からかみついてとらえます。



シオカラトンボ (オス) **オオシオカラトンボ** (メス)
 メスは、ムギワラ トンボと呼ばれます。市街地でも、池を作るとやってきます。
 シオカラトンボよりも色が濃いです。よく見られます。



ショウジョウトンボ (成熟したオスは、体が真っ赤になります。)
コシアキトンボ (腰のところがあいて いるように見えます。)
ウスバキトンボ (夏に、群れで飛んでいます。)

目がへこんでいる。



ギンヤンマ

羽が曲がっている。



ネキトンボ

学校のプールにも、秋から夏までの間に落ち葉や葦などを入れておくと、珍しいトンボが発生します。しかし、ヤゴからトンボになるときに条件が悪いと目がへこんだり羽が曲がったりすることがあります。



オオミズアオ

サクラの木に
います。



ヤママユ



クスサン

幼虫は、コナラなどの葉を食べて育ちます。
この2種はカイコの仲間で、丈夫な糸がとれます。



フクラスズメ

幼虫はしげきすると、首をふ
ったり青い汁しるをはいたりします。

成
虫

幼
虫



セスジズメ

幼虫は、ヤブカラシ、ホウセ
ンカ、サトイモなどを食べます。

成
虫

幼
虫



ユウマダラエダシャク

尺取虫の成虫。ふわふわ飛びます。



フタスジヒトリ

ヒトリは「火取り」の意味です。

これらのガは、夜、人家の灯りに集まってきます。

市街地の鳥

町中や住宅街ではツバメの仲間、スズメ、カラスなど人間にとって身近な鳥が見られます。特にカラスは人間の出すゴミを餌として食べるようになってきているため、いままで以上にいつそう人間との距離が近くなり、人間生活の中にうまく入り込んできています。



キジバト <留鳥>

翼に赤茶色のうろこ模様があります。庭の木にも巣を作り、一年間繁殖することができます。電線やアンテナによくとまって、「デーポォポォ」と繰り返し鳴きます。



アオバズク <夏鳥>

ハトぐらいの大きさのフクロウの仲間です。神社やお寺の、大きな木の穴を巣として利用し、夏の夜にホッホッと二声ずつ鳴きます。青葉の映える5月ごろから見られます。



ヒメアマツバメ <留鳥>

全身が黒く喉と腰が白。翼は細長く、飛んでいる時には三日月形に見えます。上空高く、群れで飛び、日中はほとんど空中で生活しています。



ツバメ <夏鳥>

額ひたいと喉のどは赤く、頭から尾にかけては光沢こうたくのある黒い色をしています。飛び回りながら、空中のきさきにいる虫を捕らえます。民家の軒先など人が住むにぎやかな所に巣を作ります。



コシアカツバメ <夏鳥>

腰がオレンジ色で、胸や腹には黒い斑があります。ツバメより尾の切れ込みが深いので、尾が長く見えます。ツバメよりもひらひらとした飛び方をする場合があります。



イワツバメ <夏鳥>

頭から尾にかけては黒く光沢こうたくがありますが、腰と腹側は白です。尾はツバメに比べて短く、切れ込みはありません。本来は山や海岸の崖がけに集団で巣を作りますが、都市の建造物などにも巣を作るようになってきました。



スズメ <留鳥>

のど 喉とほお 頬に黒い斑があります。建物のすき間に、わらやひもなどを材料に巣を作ります。大きさを覚えておくと、他の鳥を見分ける時の参考になります。



ハシブトガラス <留鳥>

ハシボソガラスよりもひと回り大きく、くちばし 嘴もがっちり太いです。鳴き声はカーカーまたはアーアーと濁りません。集団でにこ 囀りをとることが多いです。

留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥

コラム

鳥の名前の後ろにある留鳥・夏鳥といった表示について説明します。

留鳥：日本のその地域で1年中見られる鳥。

夏鳥：春に南から日本に渡ってきてはんしよく 繁殖し、秋になると南の国に渡って行く鳥。

冬鳥：春から夏にかけては北の国で繁殖し、秋になると日本に渡って来て冬を過ごす鳥。

旅鳥：日本より北の国で繁殖し、南の国で冬を過ごす鳥で、日本には春と秋に立ち寄る鳥。

ツバメの巣について

コラム

ツバメの巣は種類によって、それぞれ特徴的な形をしています。



ツバメ

おわん型で、人家や商店街、ガソリンスタンドのライトの上などに作ります。



イワツバメ

橋の裏側や、コンクリートの建物の屋根のようになった部分に作ります。



コシアカツバメ

コンクリートの高い建物などに、とっくり形の巣を作ります。



ヒメアマツバメ

自作の巣は空中に浮いている羽毛やワラを固めて作ります。

都市化した鳥たち

コラム

野鳥の中には人間社会に適応し、都市の中に入り込んで私達人間のすぐ身近で生活しているものがあります。



ドバト <留鳥>

お城・公園、寺・神社、畑・河原と、どこでも群れになってたくさんいるのが見られます。



コゲラ <留鳥>

一番小さいキツツキの仲間です。最近では町中の街路樹でも繁殖するようになってきています。



ムクドリ <留鳥>

人家の雨戸の戸袋に巣を作ることもします。また、夏の終わり頃から大きな群れを作って飛び回ったり、電線や鉄塔にとまったりします。



ハシブトガラス <留鳥>

町の中では最強の鳥。学習する力が高く、ゴミの集積場所や屋外のゴミ箱で食べ物をあさる姿をよく見かけます。